

令和 6 年度第 1 回

三郷市在宅医療・介護連携推進協議会

# 『日常の療養支援』

1. 昨年度の振り返り
2. まとめ  
(地域における持続可能な仕組みの構築)
3. 現状分析と課題抽出  
(関係事業者の連携の仕組みの構築)

## 1. 昨年度の振り返り

『日常の療養支援』の目指すべき姿の実現に向けて、2つの軸を設定

### ①地域における持続可能な仕組みの構築（昨年度、重点的に議論を実施）

└ 定期受診ができない、していない、中断する患者への対応を検討する



### 訪問診療（往診）の普及啓発

- ・ 訪問診療（往診）に関するチラシ、パンフレットを作成する。
- ・ 来院時の患者の様子などから、在宅療養支援のニーズに気がつくための視点を医療職、介護職全体が持ち続けることが重要。
- ・ 受診に繋がっていない患者の抽出については、市が実施する健康状態不明者対策事業との関わりが想定される。

### ②関係事業者の連携の仕組みの構築（昨年度まで重点的な議論はなし）

- ・ MCSが上手く活用されていない。
  - ・ 各職種の理解不足により必ずしも連携ができていない。
- といった課題が抽出されている。

## 2. まとめ（地域における持続可能な仕組みの構築）

### 令和5年度第3回協議会において賜ったご意見

- ・医師会としては、普段の診療時に患者へ訪問診療の切り替えを促すことが多い。
- ・促した際に、本人が嫌がるパターンや、家族をどのように説得するかという課題がある。
- ・受付などスタッフも本人の様子の変化に気が付いた場合は案内をするほか、院内掲示物でも周知している。
- ・服薬コンプライアンスの悪い方がいれば主治医に報告し、また地域包括支援センターにも情報提供をしている。
- ・相談をキャッチした場合にはケアマネジャーへの繋ぎを行っている。
- ・担当者会議でも訪問診療に関する話題が出されることがあり、関係者に促されると本人も訪問診療の方が良いのかと気持ちが傾くことがある。
- ・訪問診療を勧めているかという点について、スタッフごとの意識によるところがある。
- ・民生委員や社会福祉協議会などと連携して普及啓発するとよいのではないか。



### 方針

- ・本人の様子などから訪問診療のニーズをキャッチする視点、促す意識を保持する。
- ・チラシを活用し、本人へ促しを行う。（資料3別紙1：チラシ案をご覧ください）
- ・相談を適切な機関に繋ぐため、関係者間での連携の仕組みを構築する。

### 3. 現状分析と課題抽出（関係事業者の連携の仕組みの構築）

#### 資料 3 - 2 について

協議会書面開催時（令和 2 年度）に、医療・介護関係者にアンケート調査を実施。連携に関する回答を抽出し、資料としてまとめたもの。

#### 資料 3 - 3 について

アンケート結果をもとに、令和 2 年度書面会議時に委員より課題から具体策までの意見を賜り、資料としてまとめたもの。

資料 3 別紙 2 を  
ご覧ください

**MCSの活用**

及び

**各職種の理解不足**

が主な課題として挙げられた

#### 議題

- ・ MCSを含めた多職種との情報共有ツールについて、活用状況や改善点などはいかがか
- ・ コロナ禍を経て、顔の見える関係性や理解の促進、連携の仕組みは構築されているか